

学力研の広場

ホームページアドレス <http://gakuryoku.info/>

NO. 364

2026.6.7

学力研発行

常任委員長 岸本ひとみ

ペイペイ銀行うぐいす支店 普:3607141

ある講座で学んだことを箇条書きにしてみました。(5に注目)

- 1)名前を呼ばれたら「ハイ」と返事をするように指導する。
(返事しなければ、発言をさせない。返事・挨拶・片付け(森信三氏の躰3原則))
- 2)声で制圧する。(丹田から声を出す。)
- 3)制圧する場面と、楽しい授業・活動が両輪で回っていく。
- 4)研究授業や参観に対するように、日々の授業を行う。
- 5)保護者との信頼は、教師の見かけ(身だしなみ)で決まる。
- 6)無駄な言葉を削る。(どうでもいいことを言わない。)
- 7)理科のおもちゃ作りをやめれば、11月で全単元が終わる。
- 8)いろんな場に立って、自分が発表する。
- 9)席がえは教師がコントロールする。学期に1回。くじをしてもその後、先生の指示で変える。
「目のわるい人、前来ます。」「話をよく聴かない人、前来ます。」

(荒井)

CONTENTS

◇特集 保護者からの信頼を得るための授業づくり・学級づくり◇

信頼の一步は先手必勝	加藤英介	2
凡事徹底で信頼関係を築く	宮本 哲	4
保護者からの信頼を得るための情報発信	鈴木基久	7
学力づくりで保護者の信頼を勝ち取る	吉田雅直	9
学校と保護者の願い	根無信行	11
保護者からの信頼を得るための授業づくり・学級づくり	岸本ひとみ	14
保護者から信頼は、地道にコツコツ積み上げる	堀井克也	16

◇連載◇

「どの子も伸ばす」を本気で考える◎「意欲格差」に負けない!公立小学校へ	岡本美穂	18
考える力をつけるための授業の組み立て方㊤ できる・分かる・楽しいを保障する授業づくり	荒井賢一	20
教科書「を」と「で」で教え・学ぶ 社会歴史授業三 第三時間目「米づくりが広がったころ」	深澤英雄	22
リレー連載「全国大会講演者 新井紀子さんについて」		
読解力を伸ばす 3つの取り組みとは?	図書啓展	25
局長・常任委員長だより	27
学力研カレンダー	28

信頼の一步は先手必勝

加藤 英介

専科として

今年度は、総合的な学習の時間の専科として勤めている。三年生から六年生の20クラスを担当している。一時間は専科、もう一時間は担任である。今回のテーマである保護者からの信頼を得るための授業づくり・学校づくりでは、普段から心がけていることについて伝える。

信頼を得る学校とは？

もし、自分が保護者なら…という視点で考えてみる。どんなことがあれば、信頼できる担任・学校となるのか。例えば「校内・教室がきれいになっている」「担任の先生に笑顔があつて授業に学びがある」「子どものことを考えてくれている」などが思い浮かぶ。きれいになっていくということは、ごみが落ちていても拾う人がいるということであり、小さなことにも気付ける人であるとも言える。すっきりした空間は、集中しやすい環境づくりを意識しているというこ

とを伝えることにもなる。笑顔のある先生や清潔感のある先生であれば、子どもたちが気軽に相談しやすかったり、一緒にいて安心できたりすることが出来る。授業では、分かりやすく考えたくなる、思わず調べたくなったり、取り組んでみたくなったりする時間を作ることでも家庭でも学びを続けることができる。学習だけでなく、友達との関わりや教室で過ごす中のちょっとした変化に気付ける人は、その子の新しい一面を開花させる人であるともいえる。そのためには、どんなことをしたらよいのかを考えながら日々過ごしている。

自分の心を磨く

朝、学校に到着して行うことは掃除である。自分の机の上を何も無い状態にする。机の上が整ったら校内をお散歩する。大きなゴミを拾ったり、空気の入れ替えをしたりしながら、各先生の思いのこもった教室環境を見て、学ばせてもらっている。机の

配置や黒板に書かれていること、今日のスケジュールや朝の指示など、信頼される先生に共通していることは、とにかく教室がきれいだということ。きれいというより、整理されているという言葉がよいかもしれない。物の置く場所や片付ける位置、全てが整っている。これは、教師だけが把握しているのではなく、子どもと共通認識をもって取り組んでいるからだと思う。どこに何を置くかということを決めるだけでなく、どうしてその置き方にするのか、なぜこの順番なのかを子どもと考えているのだと推測する。整然とした教室は、入る人のモチベーションを上げるだけでなく、けがをするリスクも低くなる。実際、集中力が途切れてしまう子ども、整えてある机では、座って勉強する姿が多くなった。保護者の方も「昨年まで行動と違いすぎて…」と驚いていた。

こうやって、子どもたちが登校する前に歩くだけで、多くの気づきがある。昨日まで汚れていたのに、きれいになっているということは、誰かが掃除してくれているということである。誰にも気づかれずにさり

げなく掃除をする校長先生や教頭先生の姿を見たとき、自分もできることをしようと心から思った。ごみなんて誰でも拾うことができる。でも、拾う人は本当に少ない。そこに、気づくかどうかが信頼の一步なのだと思う。

授業はエンターテイメント

今年度は専科のため、一時間勝負である。チャイムと同時に子どもたちの心に火が付くように問いかける。

「今から写真を見せるから気づいたことを教えてください。」と一人の先生が困った顔をしている写真を見せた。子どもたちの頭の中には疑問でいっぱいだった。

- ・ 先生がいる
- ・ 何かを見つめている
- ・ 困っているんじゃないかな
- ・ パソコンかな
- ・ 一年生の教室だから…

と前日に撮影した実際の写真を見て、タブレットの初期設定を、一人で、何百台もしなければいけないという事実を伝え、みんながその場にいたらどうするかを尋ねた。

「助けてい」「一緒に手伝う」などが出た。そこで、子どもたちは、担任の先生や一年生の先生と相談しながら、タブレット交流会を行うことになった。最初、子どもたちからは「そんなことやっていいんですか」という意見が出てくる。特に、普段元気な子や学習に対して消極的な子からは「やれるわけない」というつぶやきも聞こえてくる。そのような子たちには「〇〇さんが出してくれた案はとってもいいアイデアだと思う。みんなはどうかな？だめかもしれないけれど、一度担任の先生に相談してみないか」と提案して許可をつかみとる経験をさせ、子どもと信頼関係をつくる。

総合という教科のよさは、子どもたちのやりたいことをやりたいだけできるところにある。それを生かして「わたしにもできる」という自信と経験を積ませていくことで、学ぼうとする子が増えていく。

初めての授業参観

先ほどの子どもたちの保護者が、授業参観に来ている場合には、教室前やろうか付近で出待ちをする。もしくは、子どもと一

緒に待ち構えて挨拶をする。その際に、その子の頑張りや担任の先生との微笑ましいやりとりなどを間接的に伝える。その後、担任からもほめてもらう。保護者への信頼の第一歩は先手必勝である。ただ、なんでも言えればいいということではない。その子が本当に頑張ったことや事実を伝え、その成長は保護者の方のおかげだという感謝の気持ちも添えることで、よい雰囲気の中でスタートすることができる。

受け止める難しさ

僕が一番大切にしていることは「謙虚さ」である。「先生は、わたしたちの話を受け止めてくれるから本当に救われます。今までの先生を否定するわけではありません。でも、苦しかったなって思うんです。本当にありがとうございます。」これは不登校の保護者の方が四月終わりに電話で伝えてくれた内容である。教師がよいと思っただけで、その子にとって保護者にとって、傷つけてしまうこともあるということを中心に留めて、今後も地道に進めていきたい。続きは、夏のフォーラムで語る予定である。

凡事徹底で信頼関係を築く

大阪教育サークルはやし 宮本哲

「コロナ禍の前後」

コロナ禍が起きる前と後で学校と保護者、教師と保護者、学校と地域の関係が変わってきているように感じます。

まず、学校と保護者ですが、関係性が希薄になり信頼感も減っています。前任校では、P・T・Aがなくなりました。理由は、「忙しい」という理由から保護者の方々がなかなか集まらない。役員になっても時間が合わないため集まらない。結局一人か二人の人たちが、他の人の仕事をしてしまうようになります。そうなれば、お互いに気まづくなり、保護者同士の関係も悪くなります。

それならば、一層なくしたらいいのではな

いかということでも無くなりました。

無くなった後は、学校に協力できる人を募集して有志の人たちが、協力して学校を支えていました。こうやって自ら学校のために行動してくれる一部の保護者は、学校によく来るので信頼を少しずつ築いていくことができます。しかし、それは、一部の保護者だけです。

他にもコロナ以降、家事都合や気持ち(前日、嫌なことがあった、宿題を終えていない、鼻血、軽度の頭痛、腹痛など)で簡単に学校を休ませる保護者が増えました。以前なら、親が子どもの訴えを聞きながら上手にだめ、学校に送り出していました。

それだけ、親が学校に行くことに価値観を

持っていたのだと思います。それが今はずなくなり、そんな理由でどうしても休むのと思うことがよくあります。

次に教師と保護者の信頼感も減ってきています。私がそれを最も感じるのですが、クラスに問題が起きると、担任を乗り越え、管理職に直接、話す保護者が。増えていきます。担任は、友だち関係、その問題が起きる前後での出来事、そして日常の出来事につながりなど色々なことを認識しています。それなのに担任を乗り越えて管理職に相談する保護者。管理職は、相談を受けると担任に話を聞きますが、ここで担任が伝えたいことと管理職が受け取ったことの差が生まれます。100%伝えようと思っても話し方、聞き取り方によって必ず全てを伝えることができず。それを聞いた管理職と保護者が話しても話がだいぶ違ってきて。だから何か問題があった時は、担任と

直接話したほうが問題を理解しやすいし、解決しやすいのです。

コロナ前は、それが普通だったと思います。管理職には、担任から連絡することはあっても、保護者から直接連絡することはめったにありませんでした。

さらに今は、管理職も飛び越えて委員会に直接連絡したり、市議会議員に直接連絡したりする場合があります。

親は子ども同士で問題が起こった時は、子ども同士で解決するように育てていき、自立を促します。それなのに親が、管理職や教育委員会などに担任を乗り越えて相談しているのであれば、子ども同士で問題が起こった時にすぐに先生に言っ解決してもらおうのと変わりありません。

親は、子に良い手本を見せてやらなければなりません。しかし、親がこのようにまづ担任に相談しないのは、教師に対して信

頼感がない表れだとも考えられます。

最後に学校と地域との関わりも希薄になってきています。これは、学校だけでなく、地域同士、さらには近所同士の関わりも希薄になっていきます。

「信頼貯金」

そんな中で教師は何ができるのでしょうか。一人の教師ができることなんて知れています。しかし、行動しなければ何も変わりません。

信頼は、貯金のようなものです。人の信を得るということ、つまり信用を築き上げるということは一朝一夕にはできません。

今の学校は、信頼が減る一方です。何とかして信用、信頼のある学校と言われるようになりたいたい教師、管理職、委員会等が思い、たくさん努力を続けることで少しずつその成果が積み重なっていくはずす。

まず、学校関係者全員が本気になり行動しなければなりません。

なぜ、以前の学校は、信頼があったのでしょうか。それは、以前の学校関係の方々努力によって信頼感を築きあげてこれたからです。

信頼は、目には見えません。信頼は、使っても減っていることが分かりません。今の教師たちが、今までの信頼を使っってしまったために今があるのだと思います。信頼は使わなければどんどんたまっていきます。信頼を使わないようにして信頼を少しずつためていくことが今大切だと思います。

「凡事徹底の授業・学級づくり」

凡事徹底とは、当たり前のことを当たり前以上にしていくということです。

学級で考えると、教師は、全員の子どもたちが学習したことを分かるようにしてや

り、クラスの友だちとより仲良くできる関係性を築けるようにしてやることだと思います。

そのためにも、子どもたちの学習する力、友だち同士の関係を把握しなければなりません。把握したならば、今の子どもの実態を必ず伸ばしてやらなければ、親からの信頼を得ることができません。信頼を得るために私がしているいくつかを紹介しま

【学習面・学級づくり】

漢字の小テストで満点を取らせ、そして満点以上も取らせる。まず、指書きやなぞり書き、空書き、漢字のノートの書き方などを子どもたちに教え、何度も取り組ませます。

できていれば小さいことでもほめ続け、子どもたちをやる気にさせ、小テストで満

点を取らせませす。満点が取れた時は、連絡帳や電話などで保護者に連絡します。そして保護者にもそのことをほめてもらいます。これを何度も繰り返します。

満点が取れるようになったら、名前が丁寧に書いていけば加点したり、熟語を書いていけば加点したりします。子どもたちは家に帰って「今日は、百五十点だった。」「今日は、二百二十点だった。」と嬉しそうに話します。点数に上限がないので子どもたちはさらに上の点数を目指して、家での漢字練習の量が増えます。その様子を保護者が見ています。そして、担任は、その頑張った漢字ノートのことをほめます。さらに保護者にも連絡します。

こうやってプラスのことをたくさん保護者と共有していきます。漢字の小テストから始めて、教科の大テストなどにも広げていきます。簡単に言えば、教えて、できる

ようになったことをタイムリーに保護者と共有し、共に子どもを育てていくことを意識して行動していけば、学習面は少しずつ伸びていき、保護者との信頼も少しずつ築けます。

学校の様子は、できるだけ毎日、学級通信を通して連絡します。良かったところ、改善しなければならぬところなどクラスであったことを学級通信に載せることで保護者と子どもたちのことについて共有します。家庭訪問や懇談会などで保護者から「子どもが学校でのことをあまり話さないのです。クラスでの様子が分かってありがたいです。」という言葉聞きます。こうやって少しずつ信頼を得て、貯めていくことが大切だと思います。探究的な学習の発表や見栄えなどを意識した取り組みではなく、当たり前前前前を当たり前以上に取り組んでいくことが信頼を得る近道だと思います。

保護者からの信頼を得るための情報発信

鈴木基久

新たに子どもや保護者との関係を築かなければならない重要な4月。では、子どもからの信頼と保護者からの信頼、どちらを優先させるべきだろうか。

数年前に久保先生から問われたときに、私は子どもだと考えていた。しかし久保先生は、保護者を優先すべきだと答えた。その理由として、子どもとは毎日会うのでこれからいくらでも信頼を獲得できる。一方で大人は一度下した評価をなかなか変えないことが多い。多くの保護者が今年の先生はどんな先生かなと思つて4月の参観会に来ることを考えると4月の参観授業は、保護者の信頼を勝ち取るための大切な時間であると言える。そこで「信頼できそうな先生だな。」と思つてもらえればその

後もうまくいく可能性が高くなるのである。保護者からの信頼を得るための情報発信について、私の実践を紹介する。

(1) 4月の参観授業

4月に学級懇談会がないため、参観授業を通して親子で睡眠時間の大切さとスクリーンタイムについて考えてもらう授業を令和5年度から毎年行っている。基本的な生活習慣を身に付けることが安定した生活の土台となるので、4月に確認するのが最適だと思う。保護者の感想には「スクリーンタイムについて親子で考えるきっかけになり、ありがたかった。」というものが毎年多い。保護者のニーズに応える内容なので保護者の反応もよい。2年生以上のどの学年でもできるので、おすすめの授業

である。

○今年度の保護者のコメント

・親も考えさせられる授業を楽しくやってくださりありがとうございました。日頃の生活を思い出すと、親が疲れているときにゲームや動画に頼ってしまうことが多々あります。分かっていてもついほっとしてしまいうがい自分がいることを再認識させられました。子どもと外で遊び、睡眠時間を確保できるよう家族みんなで協力していきたいと思います。

(2) 週末の家庭学習情報

学級通信を出さない地域なので、それに代わるものとして「週末の家庭学習情報」を毎週末にメール配信システムで送っている。内容は今週の子どもたちの様子、授業で取り組んでいること、返したテストの結果分析、来週のテスト情報などである。年度末に実施した保護者アンケートでは、100%の保護者が「週末の家庭学習情報」が良かったと回答し、96%の保護者が家庭学習のサポー

トに役立てられたと回答した。アンケート結果を示すことで、異動先でも同じ取り組みを実施することができた。保護者の肯定的な感想を読むことで、自信をもって情報発信を継続できている。

○昨年度の保護者のコメント

・週末の家庭学習ガイドのおかげで、学習の計画が立てやすかったです。テストも準備するのとしなないのでは、身に付き方が違うと思うので、週末から準備ができて良かったです。
・おすすめのドリルやいろいろな勉強方法を教えていただいたので親が自分で調べて勉強をさせるよりも効果的でとても助かりました。

・忙しい中でも夫婦で「週末の家庭学習ガイド」を共有でき、夫に子育てに協力してもらえてとても良かったです。1年間、ありがとうございました。

(3) 懇談会の意義

コロナ禍で学級懇談会ができない時期を経験したことで、懇談会は保

護者同士のつながりを作る場として大変に貴重な時間であり、一人でも多くの保護者に参加してもらいたいと考えるようになった。2学期の懇談会では、学習の進め方について学年懇談会を15分ほど行い、その後で学級懇談会を行った。学年の半数の保護者が出席して、保護者同士のつながりを作る場にできたと考えている。2月の懇談会では、保護者が困っていることや知りたいことについての情報交換ができた。3月に実施したアンケートでは、懇談会に期待することとして以下の項目の順に回答が多かった。

- ① 学校生活やクラスの様子を知りたい36%
 - ② 学習内容や方法を知りたい27%
 - ③ 担任の考えを知りたい19%
 - ④ 保護者同士で情報交換したい9%
 - ⑤ 保護者の知り合いを作りたい6%
- 昨年度の保護者のコメント

・懇談会では先生の意図や考えをうかがえたので、家庭で子どもに話す

ときに一貫性のある説明ができたのではないかと感じています。

(4) 家庭学習

数年前から、書き取り中心の家庭学習から、読解、作文などの力も伸ばせるような内容に変更した。子どもたちの実態に合わせて、家庭学習の内容も徐々にレベルアップするよう心掛けている。計算については、授業と関連させた内容やさかのぼり学習にできるようにしている。

○昨年度の保護者のコメント

・兄姉のときは異なった種類の宿題が多かったですが、そのおかげでこの1年かなり成長できたと思います。来年度も指導していただきたいです。ありがとうございました。

・後半には文章力をつけるための新聞を書いていましたが、娘はそれをいつも楽しみにしていて、新聞の宿題がない週末は「新聞書きたかったな」と言っていました。1年間たいへんお世話になりました。ありがとうございました。

学力づくりで保護者の信頼を勝ち取る

大阪 吉田雅直

新年度、私が一番力を入れていることは、「保護者の信頼を勝ち取る」ということです。もちろん、授業や学級づくりで子どもたちとの信頼関係を築くことも大切ですが、それは、一年間かけてじっくりと取り組むことができるし、少しくらい失敗しても、後からいくらでも取り返すことができます。

しかし、保護者との信頼関係ははじめが肝心です。なぜなら、保護者が「今年の担任はどんな人物か」ということに注目しているのは、最初だけですし、そこでの第一印象が一年間つきまとうからです。つまり、最初にマイナスイメージを与えてしまうと、ちよつとした失敗が「また」「やっぱり」とマイナスイメージを強化してしまうのです。これに対し、はじめにプラスイメージを与えることができる、少し変わった取り組みをしても「あの先生のことだからきつと深い考えがあるにちがいない」と受け入れてもらうことができるのです。保護者の信

頼を得ている状態と、そうでない状態とは、教育効果が百倍くらいちがいます。学力づくりも学級づくりも、まずは保護者との良好な関係づくりが最大のポイントなのです。

保護者の信頼を勝ち取るポイントはいくつかあります。まずは、「テキパキ感」です。新学期が始まって何日もたっているのに宿題も出さない、授業もなかなか始まらないような状態では、今年の担任は大丈夫なのかと思われてもしかたありません。すべきことはテキパキと進め、宿題も毎日適量をしっかりと出すという姿勢をはじめにしっかりと示すことが大切です。連絡帳を美しい字で毎日きつちり書かせるといっただけでも信頼感は一気に高まります。ぜひ、心地よい「テキパキ感」で信頼を勝ち取ってほしいと思います。

もうひとつは、「学力」です。保護者の願

いは、子どもたちがしっかりと学力を身につけ、成長してくれることです。休み時間にいっしょに遊んでくれる先生も最初は喜ばれますが、やはり、しっかりと学力をつけさせてくれる先生が最終的には信頼を勝ち取ることができるのです。

学力づくりへのこだわりをアピールする方法はいくつかあります。まずは、授業参観です。これは年に数回しかない貴重なチャンスなので、私は、鍛えられた音読を聞いてもらうことで、学力づくりへのこだわりと子どもたちの成長した姿を見せたいことにしています。音読は、格差が目立たない連れ読みや一斉読みがおすすです。「リズム漢字」や「百マス計算」、ことわざカードなど、毎日取り組んでいることを見てもらうのも効果的です。ポイントは、特別なことをせず、日々の取り組みをそのまま見てもらうということです。毎日していることなので、子どもたちも安心して取り組むことができ、授業参観への緊張もほぐれて、一石二鳥です。

次に、宿題です。宿題は、学校と家庭をつなぐ「窓」であり、親は宿題を通して、

学校での学習内容やわが子の学力の実態や課題を知り、教師は子どもたちの宿題から家庭の様子をうかがい知ることが出来ます。私は、宿題の本質は「科学」と「愛」だと思っています。宿題には「家庭での学習習慣を育てる」「学習内容の定着」「予習」という三つの目的があります。学年や学習課題、子どもたちの実態に応じて、「この宿題は何を目的としているのか」「その目的を達成するために、量や内容は適切か」ということを「科学的に」検証しながら調整する必要があります。また、私は宿題はどの子ども自力でできることを基本とすべきだと考えているので、その日に学習したことを、できるだけ同じ形式で出すようにしています。「これなら自分でできそう」と子どもたちが安心して取り組み、「できたー」と自信を育てられるような宿題が「愛」のある宿題だと考えています。この「科学」と「愛」のある宿題を毎日出し続けることで、保護者の信頼を勝ち取ることが出来るのです。

保護者の信頼を勝ち取るために私が毎年力を入れているのは、「学級通信」です。私は、子どもたちに毎日「感想カード」とい

うものを書かせており、それを学級通信にして毎日発行しているのですが、それを保護者とのコミュニケーションツールとしてフル活用しています。特に、四月から五月にかけては、テーマを決め、私の教育理念や指導方針・学力づくりと学級づくりへのこだわりについて、熱く語ります。昨年度の三年生では「音読」「読書習慣」「つぶやき書き」「リズム漢字」「学習規律」「体幹トレーニング」「読解力」「百マス計算」「クラス会議」「宿題」など、様々なテーマで、学力づくりで学級づくりを行い、どの子ども伸ばすための取り組みについて発信し続けてきました。その結果、家庭訪問や懇談でもそのことが話題になり、保護者との信頼関係を築くことが出来ました。

学校や学年によっては、学級通信を出すことが難しいこともあると思いますが、学年便りを使ったり、宿題プリントにコーナーを設けたり、タブレットで発信したりと、その気になれば方法はいろいろあると思います。何より、自分の「こだわり」や教育理念を言語化して発信するという行為そのものが、よりよい教育実践の力につながる

ります。まずは無理のないペースと内容で、はじめてみてはいかがでしょうか。

最後に、「単元テスト」も保護者とながら上で大切にしています。私は、テストは基本的に全員百点が取れそうなどころまで習熟してから実施することになっています。もちろん、実際に全員百点にすることは難しいですが、いくら直しをするとはいえず、間違えだらけのテストを毎回見せられた保護者は、担任への不信感を募らせていきます。子どもたちにとっても、直しをした赤鉛筆だらけの「百点」よりも、何度も練習して、本番でとった百点の方がはるかにうれししいし、自信につながるはずです。「どの子にも百点をとらせる」という教師のこだわりは、テストを通して、必ず保護者にも伝わります。テスト前にもう一時間、習熟の時間を取るだけでも違います。班で予想問題を出し合う「百点満点大作戦」もおすすめてです。ぜひ、クラスみんなで百点満点を目指し、テストで保護者の信頼を勝ち取ってほしいと思います。

学校と保護者の願い

大阪 根無 信行

一、はじめに

買い物をしたいものがあつたら、店舗を選んで自分が買いに行きます。自分が必要なものを得るために目的の場所を選びます。公立学校は、販売店やサービス業ではありませんので、二つの点でこれらと違うところがあります。一つは、店舗のように自由に選んで入学するというわけではないところ。もう一つは、義務教育であるため、私たち教師が直接関わるのは目の前にいる子どもたちですが、子ども本人の願いとともに、通わせている保護者の願いがあるというところ（基本的に無償で）。そんな学校が最も時間を取って行っているのが「授業」です。授業を大切にすることで、子どもたち、そして保護者の願いに応えることにつながるのではないのでしょうか。

二、教員・保護者の願い

先日（5月中旬）の教員研修において、学校の授業で「よい授業」とはどんな授業かを交流する機会がありました。指導に来

られていた大学の先生の話に、①楽しくて分かる授業、②楽しいが分からない授業、③楽しくないが分かる授業、④楽しくなく分からない授業、に、良いものから順位をつけるとしたらどうなるのか、というものがありません。そして、教員に事前に調査をした結果を知らせてくれました。一位になったのは、当然①の、楽しくて分かる授業、でしたが、いっぽう4位になった数で多かったのは、④と、③だったということを知られました。

私は、この調査で「楽しい」と「分かる」を同時並列で考えるのは難しいのかなと思いました。なぜなら、学ぶという授業では、分かるの後に楽しいがやってくるのが多いからです。また楽しいからといって分かるようになるには限らないですが、分かるようになると楽しくなってくるという経験もあります。ですので、学力研のキーワード『できた！わかった！つながった！』のように、後から達成感が沸いてくる、という時間の流れがあるのです。全ての行われ

ている授業の中で、楽しいと分かるが同時に存在しない授業もあるかとは思いますが、そうであっても、②の、「楽しいが分からない授業」が「よい授業」とする教員が多いということも知ることになりました。つまり、教員の「教育観」や「授業観」は、なかなかそろえることは難しい分、目の前の子どもに必要な力をつけるためにはどうしていくといいのかを話し合い、共有することに価値があるのだと分かりました。

そこで、昨今の様子を見てみると、保護者が学校に子どもを通わせる考え方や授業に期待している内容もさまざま、仕事をしている間に通わせるところ、給食をしっかりと食べて元気に過ごしてほしいところ、という、「受け皿」的な要求も多くなっています。そのため、先ほどの（①はもちろんですが）「楽しく過ごしてあげたい」という、②のような授業形態を望む保護者も、教員と同じくらいの比率でいると考えてもいいのではないのでしょうか。

ただ、それでも願いは、子どもが学校に行っている内の7割を占める授業時間を通じて、子どもが将来困らない学力と、快適な集団を自分たちで作っていく力を学校では学ばせてほしいと思っています。

そうであれば、保護者と学校の思いは同じです。「学校は学力をつける」として、ともにつながり、協力する関係を大切にできると思います。

三、保護者とつながる通信

実際に学校に通うのは子どもですから、勉強は苦手、授業はよりも休み時間が好き、と言う子もいますし、いて当然です。それをお家で話せば、授業は疲れるよね、となります。そんな子どもに、そして保護者にこそ、できるようになって、分かるようになるれば、楽しいは後からでもついてくるよと話し、そしてそれを「通信」を通じて伝えるようにしています。楽しくない授業も、楽しいだけで分かっていない授業も、どちらも保護者は不安でしょう。それを安心に変えられたらとの思いからです。家庭訪問がなくなった学校が増え、懇談会に残ってくる保護者もどんどん減る中、学校のことに つういて保護者の方々とつながれるのが、担任による学級の通信です。

下は、5月の末に作成した学級通信です。

全文フロントで文章の組み立てを考えました。 説明文

ここが組み立ての分かれ目だと思ふところに印を入れて、みんなで作成と交流すると、なるほどと思ふことが多いですね。



こうやって見わたせると文章の組み立てが分かりやすくなりましたね。

「中」と「終わり」の分かれ目を見つける授業の日。答え合わせの前には「中」が鳴り、先生が言う。「えー！ 続きやうよ」と。いつも休み時間を待ちのそんでは、みんなから思いがけない答が返ってきました。勉強の楽しさ、分かってきたかな。

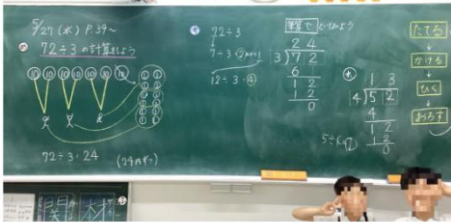
Smiles 4-1

4年1組 学級だよ

わり算筆算を習っています。

5. 27

6年間の小学校の計算で、一番むずかしいと言われるわり算筆算。わり算も、かけ算も、ひき算も使いますからね。はじめは絵(図)にして、そのあとに計算の順番を、歌で覚えました。歌の終わりにみんながオリジナルでつけた「ネ!」がすてきです。Tさんが、休み時間黒板を見に来た。



あまりに急ぎつけて、ネ!!

- ① 3 | 7 2
- ② 3 | 7 2
- ③ 2 | 3 7 2
- ④ 2 | 3 7 2

た-てろ
か-ける
か-く
おらす



「初めむずかしかったけど、できるようになって楽しくなってきた」と話してくれました。



これはYさんのノートです。自分で図をかいて考えていました。これもいいですね。

通信で教育方針に理解を求め、安心してもらうのです。参観日を除けば、学校で一番たくさん行われている普段の授業のことを知る機会がほとんどありません。ですから通信内容には行事報告もありますが、授業のことを書くことが多いです。授業の様子を知りたいと思われる方は、お子さんを通じて尋ねられることもあるでしょうが、通信はその補強になることができます。「できない」「難しい」と子どもが言うのは、習い始めだからです。算数も常に新しい課題が出てくるものですから、子どもにとって「初め」は難しいという思いを持つのは当然で、それを解決するのが授業の役目、その結果子どもたちが「楽しい」と感じていくようになったことを、伝えるようにしています。

四、世代に合わせて

当然ですが、私(50代)が新任の頃、保護者は年上の存在でした。そして自分と保護者が同世代の時期を過ぎ、今、保護者になった教え子と出会うこともあります。20年以上経つと、学校も変わりますが、保護者の学校の見方も変わってきています。その一つに、学校での個人端末の使用があ

ります。

私の世代は、子どもの頃、親に、「テレビは長時間見ません」「マンガばかり読みません」と注意されてきました。確かに、目にも、学習習慣にも良くはありませんので、注意されるのもしかたなかったと思います。一方、テレビが一台しかなかったため、親自身もテレビを見ないことになりましたし、通勤電車では新聞を読んでいたそうです。しかし、自分が親になった頃、テレビよりゲームが「悪いもの」になり、テレビはつけっぱなしでも気にならないのに、ゲームをしていると「やめなさい」と言いたくなるようになってしまいました。また、マンガは大人になった自分自身も読んでいます。より気になるコンテンツが出てきたことで、前の世代のものが、既得権を得た感です。さらに現在、個人端末を家でも学校でも子どもが持つようになり、ゲームよりもスマホ動画視聴やSNSアプリが子どもたちの学習時間を奪うものになってきました。すると、スマホでSNSを見たり動画視聴したりするのでなければ、アプリでの学習は比較的「良いもの」として映るようになりました。学習アプリを使って、効率的に個別最適な学習をする、ということは、今の

世代の保護者にとって魅力的であったりします。ゲームをクリアするように楽しく学習できれば、「いいもの」になりませんか？ですから、私たちの世代が、学校でのデジタル化を「否定」しても、今の世代の保護者には受け入れられません。私たちがテレビを気にしなくなったのと似ていると思います。ですから、「デジタル否定はせず」「アナログを推奨する」というスタンスで保護者とならうとされているところです。

学校で、紙とえんぴつ、教科書、これらを使ってみんなで一緒に授業をすすめることが、子どもの学びにはもったいい効果を生むですよ、ということを、機会ある毎に、子どもに伝え、保護者の方に知らせ、効果的なデジタルは使い、「目の前の子ども」の成長を」という共通の願いで、保護者とならうことを大切にしたいと思います。

保護者の方も、いろいろな考え方があろうでしょう。その上で、押し付けでなく、理解を求めながら、これからも共に子どもにとってよい学校をつくっていくパートナーでありたいと思っています。

保護者からの信頼を得るための

授業づくり・学級づくり

いろえんぴつ 岸本 ひとみ

自分が保護者だったら……

あまり難しく考えず、自分がこの子たちの保護者だったら、どうしてほしいかを考えれば、自ずと具体的な方法が見つかります。

先日、教頭席の目の前の電話で、保護者と話をしました。教頭席からだ、私の言葉だけが聞こえます。

「お母さん、どうされましたか？」

「そうですか、では〇〇さんと代わっていただけますか。」

宿題の内容がはつきりわからなくて、お母さんに頼んで電話してもらったようでした。一通り説明して、わかったという返事の後で、

「じゃあ、もう一度お母さんと代わってくださいますか。」

「〇〇さん、わからない点を上手に説明し

てくれました。連絡いただきありがとうございます。

ございました。ご心配をおかけしました。」

というやりとりを聞いていた教頭が、ポツリとひとこと。

「先生は、〇〇さんが『してくれました。』って言われるんですね。」

いつも通りのやりとりだった私にとって、なぜに???でしたが、

「自分の子どもに対して、丁寧語を使う先生は信頼されますよね。」

という、コメントでした。

日常の何気ない言葉づかいが、相手を尊重しているかどうかの判断基準になることもあります。意識して、上手に敬語を使うと、それだけで誤解が解けることもあります。

学習内容をこまめに知らせる

私の学級通信は、記事の1/3は、学習内容に関することです。4月以来取り上げたものは、

○リズム漢字 2年生編

○読み上げ計算

○漢字ミニテスト

○自学ノートの使い方

○パチパチタイム

(小野市の特産は算盤なので、朝の学習で算盤タイムがあります。)

けっこうな頻度で、学習に関する記事を載せています。

その次に多いのは、子どもたちの日記のコーナーです。これも、全員が載るよう回数に気をつけて、出しています。

4月の初懇談で、

「全員のものが載りますか？」

と質問された保護者がありました。

「もちろんです。回数はチェックしていただきますよ。」

と答えると、ほっと安心した空気が広がりました。今年は、なかなか載せられるよう

なおもしろい授業ができていませんが、楽しい子どもたちとのやりとりも載せます。

時には、困ったことも載せます。それを読んだ保護者の方が、我が子が該当者だったことを知って、あわてて電話して下さる



昨日は、縦割り活動の第一回目でした。顔合わせと、みんな遊びが中心でした。あいにくの雨天で、運動場では遊べませんでした。2組さんは、2組さんばかり1年生だけは1クラスなので、半分に分かれています。(のメンバーになりました。18人が8チームに分かれたので、それぞれ2人か3人ずつです。

低学年の間は、高学年がちゃんと面倒を見てくれますが、3年生になると、自分のことは自分でしなければなりません。ちゃんとみんなで楽しくゲームをしているだろうか、ちょっと心配でした。

ところが、ちゃんと、右のひとりを言いながら、右のひとりに行ってきて、トランプB3セットを持って、さっさと自分の教室に帰って行った人がいました。自分のチームが、楽しく遊ぶために、いろいろ考えて行動できたことに、拍手！3年生になると、みんなのことも考えられるようになってきているんですね。安心しました。

こともあります。でも、一応解決を見たことを、1週間後ぐらいに出すようにしています。深刻な問題は、出せませんよね。

通信は、A4で作って、B5で印刷すると、すっきり見やすくなります。3段組みで、記事は2本のみですから、続けられる

のです。

連絡帳にひとこと

通信とは別に、連絡帳にひとことコメントを入れていきます。中学年になると、なかなか連絡ノートを確認してもらえない場合も多いので、見てもらうための作戦でもあります。

- ・給食当番の大おかずを、上手に盛り切りされています。よく考えて仕事をしておられます。
- ・そうじの時に、1年生の子のバケツを運んでおられました。優しい！

ほんの1行程度なのですけれど、褒め言葉が並んでいるので、子どもたちもご満悦です。

中学年ともなると、なかなか学校での様子を話さなくなります。保護者からしたら、ちよつとしたことで、我が子との会話の糸口になるようで、肯定的なコメントが返ってきます。わが子の意外な一面を知りました、というコメントも多いです。

これも、コメントを書いていない子ども

を記録しています。だいたい10日くらいで見直して、抜けている場合は、残りの日で、その子の動きを観察する、というようにしています。

記録・メモがポイント

4月のスタート講座で、毎年提案していること。多少面倒でも、記録をきちんと残しておくことが大事ということ。

学級通信は、クラスの歴史であり、授業記録であり、実践記録でもあります。連絡帳のひとことメモは、指導要録を書く時に活かせます。

毎年、A4サイズの60ページノートを買って「子どもノート」として記録しています。必要なことはコピーして貼り付けただけなので、それほど苦にはなりません。ただ、厚みだけが増しましになって、年度末にはずっしり重くなってしまうだけです。若い先生は上手にタブレットにメモしておられます。その方法もありですよ。連絡帳を写真に撮って、カレンダー機能を使って保存するのだそうです。

保護者からの信頼は、地道にコツコツ積み上げる

春日井学力研 堀井 克也

◎ まずつかむべきは子どもより親の心

私が学力研に出会ったのは十五年ほど前のことです。大阪での全国フォーラムにとび込みで参加したところ、春日井学力研の山口先生に誘っていただき、年に二回ほどの頻度で春日井にて行われていた学習会に参加するようになりました。そこで一番たくさん教えをいただいたのが、久保齋先生でした。最近でも久保先生はよく「保護者の心をつかむ大切さ」について話されますが、当時も詳しく、かつ熱く語られており、とても勉強になりました。

この四月、最初の授業参観が近付いてきた頃に、若手教員に「何やる？」と聞いて回りました。すると、多くの若手がそれほど明確なねらいをもたずに授業参観に臨んでいるように見えて、危機感を覚えました。特に、保護者の心をつかむことを意識して授業を考えている人は一人もいませんでした。

た。これは私の責任だ…と思い、自分が最初の授業参観で保護者の心をつかむことを意識しており、授業参観までの日々の授業でそのための種まきをしているのだということをお伝えしました。同時に、これが一年間安定して学級経営を行う上でとても大きな意味をもつのだ、ということも伝えました。

保護者から信頼される教師になることの大切さは、若手だって知っています。けれど、ではどうしたら保護者から信頼されるのかの具体的な手立てについては、よく知らないのです。教えてあげねばなりません。

◎ 成果を見せる工夫をする

学力研で最もよく知られている実践といえば「百マス計算」です。学力研で学ばれている方なら、みなさん一度は取り組まれたことがあると思います。毎日コツコツ続けることで、個人差はあれど、どの子どももみんな伸びていきます。しかし、そうした成

果は伝えようとしなければ保護者には伝わりません。特に高学年になると家で学校のことを話さない子も増えますから、放っておいては保護者には届かないのです。

そこで、百マス計算の記録用紙に、最初から保護者の印・サイン欄と一言スペースを設けておきます。子どもたちも当然それを見ますから、気合が入るでしょう。そして、日々百マスに凛々しく取り組みながら、過去の自分との勝負に勝ち続けることの難しさや価値、記録が伸びない時のイライラ・モヤモヤとの向き合い方、仲間の成長を自分のことのように喜べることの素晴らしさなどを地道に伝えていきます。既定の回数を終えた時に、記録だけでなく、「百マス計算を通して学んだことやついた力」についても記述させた上で、持ち帰って保護者に見せるように指示します。

漢字のテストで百点を取らせる取り組みも効果的です。百点は子どもも喜びますし、嬉しいことは進んで保護者に伝えるでしょう。これまで百点なんて取ったことの無いわが子が百点の漢字テストを持って帰って来れば、担任に対する信頼も高まります。

◎ 配布物を確実に保護者の手元へ

いわゆる手のかかる子の親がすごく困ることの一つが、「学校からの配布物をちゃんと持ち帰ってこない」という問題です。個人懇談会の日程調整のお知らせが期限を過ぎても集まらず、子どもに確認したところしわくちやになったプリントが机の奥から出てくる：そんな経験がありました。保護者からすると急な話で慌てるし、先生には謝らなきゃいけないし、子どもは叱らなきゃいけないし：三重苦です。

こうした問題を子どものせいにしていても良いことはありません。ですから、提出期限のある配布物については、配る前に「今から大切なお知らせを配るから、受け取ったら机の上に置いてまず読んでね」と伝えただ上で配ります。すぐに机にしまい込む子が必ずいるので、注意します。そして、期限を確認し、丸をつけさせ、必ずその日のうちに保護者に届けるように話します。心配な子はその場でランドセルへ入れさせます。(それでも心配な子の場合、その日のうちに電話して伝えておくようにします)

保護者に渡す際には「これは期限がある

ものだから、忙しいとは思うけれど、書いてら早めにください。お願いします。」と言いながら渡すようにしてね：と話します。「お願いします」がカギで、決してえらそうにしてはならない！とも話します。ここ

まですると大抵はちゃんと保護者の元まで届きますし、その日のうちに届くように教師が配慮していることも伝わります。(今後DXが進んで紙の配布物が減っていけばこの手は使えなくなるでしょうが：意外とまだしばらく紙の配布物は無くならないのではないかと見ています)

◎ タブレット内のデータを

敢えて印刷して持ち帰らせる

昨年度から、同じ学年を組んでいる先生の意向で社会の学習のまとめをロイロノート上で行っています。メリット・デメリットがありますが、大きなデメリットの一つが「学習の成果が保護者に見えにくいこと」です。そこで、単元ごとにある程度まとめた枚数を印刷し、百マスのように子どもの書いたふり返りを添えて、持ち帰らせて保護者に見せるように指示します。必ず印

シをもらうように伝えておくと、最近の学び方について不安を抱えている保護者にも学びの実態が伝わりやすくなります。

◎ 進んで自己開示を

これは万人にお薦めするわけではないのですが、私はクラスの子どもたちに進んで自己開示をするように心掛けています。自分の子どもの子育てのことや悩み事、趣味や最近読んだ本など、ちょっとした時間色々話をします。教師として本を読んだり人に会ったりして学んでいるという話もします。こういうちょっとしたやり取りの具体を、子どもたちは結構家で話します。毎年、私が担任する子どもたちの多くは、家で「ホリーが今日はこんなことを言っていた。」とよく話すようになるそうです。(友達の名前より私の名前がよく出てくるような)子どもが学校の話を楽しそうにする：私も親ですから、それがどれほど保護者を安心させるかはよく分かります。先生も、教師である以前に一人の人間なんだよ、ということを積極的に伝えていくと、子どもも保護者も、一人の人間として接してくれるようになる気がするのです。

「意欲格差」に負けない！公立小学校へ

事務局長 岡本 美穂

1.「ラブレターのノート」と私の教師人生

私は、保護者の方々からいただいた手紙やメッセージをまとめたノートを、十五年以上続けています。私はそれを「おうちの方々からのラブレター」と呼んでいます。いただいた言葉をコピーして貼ったり、最近挟んだままのものも増えてきましたが、その一つひとつが、私の教師としての歩みを支えてきました。

このノートを作り始めたのは、新任の頃からです。私は本当に保護者の方々に恵まれてきました。

「先生、ありがとう」

「子どもが学校を楽しみにしています」。そんな言葉をいただくたびに、胸が温かくなり、励まされ、「残しておきたい」と自然に思いました。

教師は一人で子どもを育てているわけはありません。保護者の方の支えがあつて

こそ、子どもたちの成長を共に見守ることができます。私はそのことを、二十年近くの教師生活の中で、何度も実感してきました。

2. 保護者の声が教えてくれたこと

最近、姪っ子が一年生になりました。母である妹は、学校での様子をよく話してくれます。「先生、頑張つてはるよな」「保護者つて、意外と先生を応援してるんやで」。その「保護者側の声」を聞いたときに、私は改めて、保護者と学校がつながることの大切さを感じます。

昨年度の一年生の保護者の方々も、学年の終わりに電話や手紙でたくさんのお思いを届けてくださいました。その言葉は、今でも私の支えになっています。保護者の方々は、子どもの成長を願う気持ちと同じくらい、教師のことも見てくださっている。そ

う感じる瞬間が、これまで何度もありました。

3. 「分かり合えない」

という経験が教えてくれたこと

しかし一方で、数年前には、どう頑張っても分かり合えないと感じた保護者の方もおられました。私にとって初めての経験でした。

私はそれで、

「丁寧に話せば分かつてもらえん」

「誠意を尽くせば伝わん」

と信じていました。もちろん、丁寧に話すことで伝わることもたくさんあります。

しかし、それだけでは埋まらない距離があることも知りました。「保護者と一緒」に子どもを育てる「いつ」この難しさを、初めて実感した出来事でした。

この経験は、私にとって決して「失敗」ではありませんでした。

むしろ、「教師と保護者の関係は、努力だけではどうにもならない」ともあるという現実を知り、そのうえでどう向き合つかを考えるきっかけになりました。

4. 働き方改革と「つながり」の揺らぎ

今年、異動した学校では、家庭訪問が希望制となりました。これもまた初めての経験です。参観日でも、誰がどの保護者の方なのか分からない。夏の懇談まで、お話をしない方もいるかもしれない。そう思うと、不安がよぎります。

家庭訪問や懇談は、何のためにあるのだろう。働き方改革とは、何なのだろう。教師の働き方を見直すことは大切です。しかし、その中で失ってはいけないものもあるのではないかと感じています。

保護者と教師がつながる機会が減るとは、子どもにとって本当に良いことなのか。効率化の名のもとに、関係性の土台が薄くなってしまうのではないか。そんな不安を抱えながら、私は今年のスタートを迎えました。

5. 保護者対応で本当に大切なこと

では、保護者対応で本当に大切なことは何でしょうか。

守壁に対応するのでしょうか。

ミスをしないかどうか。

私はそうは思いません。大切なのは、「この先生と一緒に子どもを育てたい」と思ってもらえる関係をつくることだと思います。そのためには、「こちらから知ろつてほしい」と。小さな子どもも伝えること。そして、子どもの姿と一緒に喜ぶこと。

それは簡単なようで、とても難しい。でも、だからこそ大切にしたい。保護者との関係は、特別なイベントや大きな成果で築かれるものではありません。日々の小さな積み重ねが、信頼という土台をつくっていきます。

6. 「ラブレターのノート」が象徴するもの

私の「ラブレターのノート」は、保護者の方々とつながりの記録であり、教師として支えてもらった証でもあります。ページをめくるたびに、その時々の子どものたちの姿や、保護者の方々の思いがよみがえります。

このノートは、私にとって「思い出」ではなく、「原点」です。迷ったとき、立ち止まりたいとき、私はこのノートを開きます。そして、「私は一人ではない」「保護者と共に

子どもを育ててきた」という事実を、そっと背中を押されます。

7. これからも、保護者と共に

子どもを育てるために

これからも、私は迷いながら、悩みながら、保護者の方々と共に子どもを育てる「こと」を考え続けていきたいと思っています。制度が変わっても、働き方が変わっても、子どもを真ん中に置いたときに必要なものは変わらないはずです。保護者とつながること。子どもの姿を共有し、喜び合うこと。そして、「この先生となら」と思ってもらえる関係を築くこと。その積み重ねこそが、子どもたちの安心と成長につながると思っています。子どもたちの成長は、学校だけでなく、家庭だけでも成し遂げられるものではありません。日々の小さな変化に気づき、喜び、悩み、支え合いながら、子どもを真ん中に置いて歩いていく。その営みに、教師と保護者の関係があります。

私の「ラブレターのノート」は、その歩みをそっと照らし続けてくれる、大切な道しるべです。

できる・分かる・保障する授業づくり

できる・分かるを保障するには？

できるを保障するには、公文と同じで、できているところまで戻る必要がある。そして、ステップを細かくしないとけない。山登りで例えるなら、頂上まで登ることができたら「できた」となるが、それを全員に保障するのは、難しい。それゆえ、山登りにステップをつけ、「一合目までできた」「二合目までできた」とするわけだ。では、分かるを保障するには、どうすればいいのか。

これは、頂上へ多様な方法で登らせることが必要となる。山があつて、一本道をたどって頂上へ登ったところで、その山が分かったとはいえないからである。

最後に、楽しいを保障しようと思えば、ステップしたできるを達成させる中で、山登りに例えるなら、周りの景色を楽しむということである。ただ、楽しさを感じるポイントとは、人によって違うので、保障できると思いう方が無理というものだろう。

ZEROKOの取り組み

ラジオ「辛坊治郎ズームそこまで言うか！」(2026.4.13放送)をポッドキャストで聴いていると、すごい話題が特集されていた。

『日本の「食」に革命を起こす冷凍でも冷蔵でもない第3の食品保存方法「ZEROKO」とは？』である。

「ZEROKO(ゼロコ)」とは、冷蔵・冷凍に次ぐ第三の鮮度保持技術および食材保管庫。庫内を温度0℃・湿度100%弱に安定的に保つことで、庫内の食品の美味しさと品質を保つまま長期保存が可能になる。また、食品の冷凍前に予備冷却装置として使用することで、ドリップ(食材の水分が流れ出たもの)の流出や冷凍焼けを防止。食材の美味しさや鮮度を保ちながらフードロス削減を実現し、鮮度を保ちながらの大量保管・物流を可能に

することで、物流コスト削減にも寄与する。
HP「知財図鑑」より

物は温度0℃で凍るのではなくて、1℃から凍り出すそうだ。

食品が凍ると、食品内の水が氷になる。水は氷になると体積が増えるので、植物系であれば、その膨らんだ水が細胞壁を壊してしまう。さらに、普通に冷凍してから解凍すると、その水が水となり流れ出し、養分も一緒に流れてしまうそうである。要するに、味と栄養分が落ちてしまうわけだ。

でも、0℃保存なら、食品は凍らない状態だ。そのまま新鮮な状態でいられるそう。さらに、湿度を100%にすることで、酸化しにくくなるということである。

ZEROKOの取り組みは、ネットで調べると、様々なところで取り上げられている。注目度が高いようだ。

HTB北海道ニュースが「新たな食品保存法「ZEROCO」北海道内で全国初の実証実験はじまる」(2024.8.28)の動画がYouTubeにアップされていた。その中で、レタスを生産している人が、次のように語っていた。

「レタスを作っているのですが、レタスは非常に傷みやすい」

「長期保存が可能だと作りやすい時期にたくさんとって保存できる」

野菜にしても魚にしても旬の季節がある。要するに、その時は大量にとれるわけだ。ただ、たくさんとれると、その物の価格は、安くなる。(消費者としてはありがたいが。)そして、あまり価格が安くなりすぎないように、多すぎる収穫物は廃棄されたりもする。

でも、長期保存が可能になれば、例えば、レタスがとれないような冬の時期に出荷して、高価格で売れることもできる。多く作りすぎたものを廃棄する必要もない。授業化する上で、実際にレタスが何日ぐらいいつのかを調べてみた。

すると、レタスは約95%が水分で、そのレタスの水分が乾燥により蒸発すると、すぐしなびてしまうようだ。それゆえ、ホームページには、様々なレタスの保存方法が紹介されていた。

具体的にいえば、冷蔵庫の野菜室にそのまま入れた場合、3〜5日ほど。でも、外側から痛み始めていくそう。

1玉丸ごとポリ袋にいれて、冷蔵庫の野菜室に入れておけば、1週間〜10日、もつそうである。

カットして冷凍保存すれば、2週間ほど

持つそうだが、使うときは解凍しないで、そのまま料理に使うといいそうである。

多分、冷凍によって、細胞膜が壊され、解凍すると、水分とともに養分が流れ出してしまうからだろう。

ちなみに、ZEROKOの保存方法では、約一ヶ月たっても、まったく変色してない。(最長でどれだけ保存できるかは検証中。)

ZEROKOの取り組み授業プラン

① 通常価格に近づけるため廃棄されているレタスを紹介。

② 五年社会教科書の「食品ロス」の問題を音読。

③ 家庭科教科書の「生活を支える物やお金」の単元に、賞味期限と消費期限の意味を問う。

④ 賞味期限はおいしく食べられる期間、消費期限は安心して食べられる期間を意味することを確認する。

⑤ この期限は、「ふくろや容器を開けていない状態」で、書いてある「保存方法」を守っていることが前提。

⑥ 牛乳や生の肉なら10℃以下、ローストビーフは4℃以下、冷凍食品はマイナス15℃以下で保存しないといけない。

⑦ 食品を長持ちさせることが、なぜ必要なのかを問うて、発表させていく。

⑧ 食品を長持ちさせる方法(賞味期限、消費期限を延ばす方法)を考えさせる。

⑨ 発表。

⑩ 縄文人はどうやって食べ物を保存したか。(4択、正解はくん製)

⑪ 五年社会教科書には、雪の下で野菜を保存する方法を紹介。

⑫ 冷蔵でも一定期間を過ぎると乾燥・腐敗する。

⑬ 冷凍は、水分が結晶になり膨張し、細胞が壊れる。

⑭ レタスの様々な保存方法を紹介。

⑮ 今、冷蔵、冷凍にかわる第3の技術が登場したことを紹介。

⑯ ZEROKOの取り組みの動画を視聴する。

⑰ ZEROKOの取り組みが、食品ロスや世界から飢餓をなくすことに貢献できる可能性を語る。

できる・分かるを保障するために、教えることを理解するために必要な知識を逆算して、授業に組み込むことが必要なのである。

第三時間目「米づくりが広がったころ」

学力研常任委員 深沢 英雄

一、米づくりが広がったころ

日本文教出版七十四〜七十五ページでは、「米づくりが広がったころ」と題して、弥生時代について学習するようになっていきます。教科書の構成については先月お話をしたように、六十八・六十九ページで縄文と弥生の想像図を比較する活動があります。弥生の想像図もよくできてきていると思います。子どもたちに発見することを学ばせるにはとてもいい教材です。

二、授業の流れ

◎六十九・七十ページの「今から約二〇〇〇〜一七〇〇年前の集落のようす」を見て、食べ物をすべて書きましよう。教科書に○をつけて、それからノートに書きます。縄文時代の授業でもやっています。想像図を見て、縄文時代と弥生時代を比較し、くらしがどのように変わっているかを「食



今から約2000〜1700年前の集落のようす (118頁)

べ物」から掴ませます。

狩猟、狩りは、シカ

漁撈(ろう) 海・川は、魚

さいばいは、米(稲)

を見付けることができます。

少し小さくて申し訳ありません。拡大してみます



発表させた後に教科書にのっている縄文時代弥生時代の食事の図を並べて提示します。



魚と野鳥の肉などをにたもの

木の葉やほした貝などを盛り合わせたもの

④ 狩りや漁をしていたころの食事(復元) 土器の発明で、にたりたりできるようになり、料理方法も変わり、食べられるものの種類も増え、人々の食生活は、より安全で豊かなものになりました。



赤米のごはん

酒

だいごん、だいでず

アサリとイダゴのうまに

焼いたアユ

⑤ 米作りが広がったころの食事(復元)

◎食べ物について縄文時代と弥生時代で一番違うのはなんだろうね。と聞くと、「米づくり」と子どもたちは答えます。ここで、今日のめあてを出します

「米作りが広がったところの人々のくらしの様子を調べ、人々のくらしや社会の変化をとらえることができる」

続けて、

◎弥生時代の米作りのようすを見て、気づいたことを発表しましょう

と米作りのようすの想像図をしつかりと見させます。この絵は、左半分は春から夏、右半分は秋のようすをえがいています。

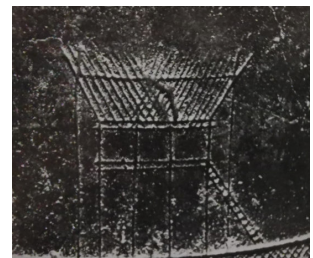
・木製の道具・田植え、稲かり・水路、あぜ道・高床倉庫・米作りを指導する人
・みんなで協力など



米づくりを指導する人の存在とみんなで協力している姿については、発言がない時は補助発問で、着目できるようにします。

その後に、教科書七十五ページを読みます。「米作りには、多くの人手が必要です。人々は、指導する人を中心にして、みんなで米作りや豊作を祈る祭りをおこない、むらとしてのまとまりを強めていきました。」

教科書七十七ページの銅鐸に描かれた絵を拡大して見せます。



◎お米は、これまでの食べ物とは違ういいことがあった。それは何か？を子どもに問うて、班で相談し発表します。五年生で学習した米づくりと関連させます。色々な意見がでると嬉しいですね。教師のまとめとしては、

- 一、ひかめ、長く保存ができる
- 二、えいよう価が高い
- 三、種を1粒まいたら、たくさんとれる
- 四、同じ場所がかくじつにとれるなどです。

育てた米を食べるには、



③米のたきに使われた弥生土器



教科書七十四ページの

「登呂遺跡では、今から1800ほど前の水田やむらのあとが残る遺跡で、住居と米の保存に使われた高床倉庫のあとが見つかっています。」

人々は、米づくりに適した水の便のよい湿地に何枚もの板を打ちこんで、水路やあぜ道をつくり、水田をつくっていたと考えられています。

米やおかずのにたきに使ったり、たくわえたりするための土器は、高温で焼かれるようになり、縄文土器と比べてうすくかたく、もようは少なくなりました。このような土器を弥生土器といいます。」を読み、キーワードの

「弥生時代…約二四〇〇年前から三世紀中

ごろまでの、調理に適したうすくてかたい弥生土器が使われた時代です。」
を押させておきます。

ここで考えさせる発問をします。

◎あなたが縄文人なら米を作るとい
う新しいやり方を受け入れられますか？

一、米づくりを受け入れる

二、米づくりを受け入れない

(今までの生活でいこう)

班で相談させて理由もつけて発表します。

子ども達は、色々な考えを出してくれます
教科書七十五ページにはこうあります

「米作りは、今から2400年ほど前に、
大陸や朝鮮半島から移り住んだ人々によっ
て伝えられました。その後、九州の北部か
ら東日本へと広がり、人々の食生活は米が
主食となっていました。」

◎時間はかかったが、少しずつ受けて入れ
ていった 1番と言います。続けて

◎青森まで広がるのにどれぐらい何年かか
ったのだろう？班で相談してみてください

子どもたちは色々と言います

答えは「数百年」と伝えます。でも日本全
部に広がったかというところではありま

せん。ここは教師が説明をします。

「北海道や東北の一部は米づくりでなく狩
猟採集中心の縄文的な暮らしがつづいたの
で、続縄文時代といわれます。沖縄などは
貝塚時代とよばれました。」「なぜか？五年
生で学んだ米づくり、沖縄のくらし、北海
道のくらしから考えさせます。」

◎気候や土壌などの理由を紹介します。東
北海道では食料がもともと豊かで、鉄器が
伝わり狩猟、漁撈(ぎよろう)、採集技術
がさらに進歩したことで、あえて米作りを
行う必要性がなかったことなども説明しま
す。沖縄も狩猟・漁労・採集が生活の中心
で米づくりは定借しなかったようです。

◎子どもたちに、2番の米づくりを受け入
れない(今までの生活でいこう)も答えと
しては正しいことを言います。

◎地域性などにより、新しいことを受け入
れるには、幅があることを伝えます。最近
の説では米づくりが紀元前1000年前ま
でさかのぼる説もあるので、教科書にも七
十五ページには、「今から3000年前か
ら2700年前ごろという説もあります」と
書かれています。

リレー連載 「全国大会講演者 新井紀子さんについて」

読解力と学力を伸ばす 3つの取り組みとは？

図書 啓展(すしよ ひろのび) 大阪みなみ学力研

今、朝日新聞で新井紀子先生の連載をしています。(第二・第三水曜 6月まで)

もう読まれましたか？

「読解力と学力を伸ばすには」と題したその二回目の冒頭は次のように始まります。「読む力は学力の上限を規定する。書く力は学力の下限を規定する。」とよく言われます。

学力研の皆さんならわかりますね。

そう、故岸本裕史先生の言葉であり、学力実践が大切にしてきた視点です。私たちは読む力や書く力を学力の基礎だと考え、長年実践し研究してきました。

新井先生は、この論考の中で

「どうすれば学校や家庭で読解力を伸ばすことができるのでしょうか。」

と問いかけ、顕著に読解力と学力が向上した自治体を取り組んだ三つのことを指摘します。

「一つめは、小学校なら担任の先生が、中学校ならば各教科の先生も含めて各児童生徒のRSTの結果を把握し普段の様子とつなげることです。」

RSTとは、新井先生が開発された「リーディングスキルテスト」です。「読む力が学力の上限を規定する」という仮説を裏づけるようにRSTのスコアと学力、特に「のびしろ」との間に強い相関があることもわかってきました、と述べておられます。(著書「シン読解力」の中でも詳しく紹介されています。p.108)

「二つめは、基礎基本の定着のために時間を確保することです。

具体的には、算数(数学)や理科、社会科の教科書を題材に、視写や聴写、音読などに取り組みます。」

さらりと書かれています、視写や聴写

など、まさに紙の教科書を活用し、紙のノートやプリントを使わないと上手くできません。学力研でも成果を上げた数多くの実践例があります。

音読も、両手で持って姿勢を正し、声を出して読むわけですから、紙の教科書がベストなのはもちろんのことです。今話題のデジタル教科書では無理です。

音読が、黙読に比べて、大脳の働き・とりわけ前頭前野を活性化することは以前から脳科学で明らかにされてきましたが、今や常識となっています。前頭前野は、脳の前方に位置する「人間らしさ」を司る重要な領域で、集中力・感情制御・社会性などを担う司令塔です。

「授業は教科書の音読から始める」「音読を楽しく徹底させる」という学力実践の先駆性がわかります。

日本の教育・学力研が大切にしてきたアナログ教育こそが、子どもたちの脳を健全に育てるのです。

先生は言われます。

『『デジタル教科書の時代に?』と笑われそ

初めて授業の本丸である『考えることに』
全力で取り組むことができます。』

とても共感します。

GIGAスクール構想の下、日本でもデジタル教科書が導入されようとしています。
しかし、世界の流れは日本と真逆です。

●今、世界の流れは

日本より10年以上早くデジタル端末を導入し、紙の教科書からデジタル教材に移
行したスウェーデン。結果、子どもたちの
読書量の低下、読み書き計算力の大幅低下、
暴力や荒れ、さらには教師の教える能力の
低下が社会問題となり、教育大臣が「本、
紙、ペンを使った従来の教育が最適である、
という科学的裏付けがある」と発表、つい
に2023年に明確な政策転換を行い、デ
ジタル教育からアナログ教育へ回帰してき
ています。

ノルウェーも校内暴力の続発から、デン
マーク・フィンランド・オランダでも、子
どもたちの低学力化からデジタル教育の見
直しが急速に進められ、ニュージーランド
やアメリカでは手書き学習の重要性が再確

認されカリキュラムに取り入れられてきて
います。

お隣の韓国でも、子どもに学力がつか
ないと保護者の反発を受け、AIデジタル教
科書は事実上廃止となりました。

一方、学力世界一といわれるシンガポ
ールでは社会のデジタル化と教育のデジタ
ル化はきちんと区別され、小学校では一人一
台端末は導入せず、中学校から、と発達段
階が踏まえられて、デジタルとアナログの
融合で進めています。

脳が急速に発達していく子どもたちにと
って、デジタルツールは睡眠や集中力、学
習にリスクがあることが科学的な研究に
よって明らかになってきているのです。

このように、ICT先進国が軒並み失敗
し、アナログ教育に戻ってきているのが世
界の流れです。

●読解力と学力を向上させる

新井先生が指摘する三つめは、

「教科書を読み解く」ことを授業の中心
に据えなおすことです。

なぜなのか？

続けて述べられています。

「教室で何かを考え、話し合うためには、
『何を根拠に考えるのか』が共有されてい
る必要があります。」

教科書は、誰もが等しくアクセスできる
ように無償で配布されている、学びのため
の共通の基盤です。」

教科書を共通の基盤にしてこそ、対話や
話し合いがはずみ、考える力も伸びる一斉
授業が展開されるのだ、という点で本当に
嬉しくなる指摘です。

日本の教育・学力研がこれまで大切にし
てきた紙の教科書やノート、板書、対話と
話し合い、読書など、手書き学習・アナロ
グ教育こそが脳の発達を促すのであり、今
や、いわば世界の最先端の教育実践となっ
ているわけです。

8月1日(土)エルおおさか(天満橋)

で開催される「学力研全国フォーラム20
26」は、新井紀子先生と学力研の協力がタ
ッグで、日本の教育の画期となるでしょう。

参加申し込みも増えてきています。ぜひ
お誘い合わせの上、ご参加ください。学び
合いましょう！お待ちしております。

局長だより 6月

◇学力研最新情報 岸本ひとみ

●新井紀子さん

朝日新聞連載中

全国フォーラムの記念講演者、新井紀子さんが、朝日新聞に連載をされています。5月2回と6月2回の予定とのことで、各月第2と第3水曜に掲載されます。

第2回では、学力研の前身である落ち研(学力の基礎をきたえ落ちこぼれをなくす研究会)の創始者のひとりである、岸本裕史さんの「見える学力・見えない学力」という言葉も引用されています。次回は6月10日、最終回は17日掲載です。

全国フォーラムに参加予定の方、同僚や知人を誘おうとお考えの方、この記事を示して声をかけると、心が動くと思います。

また、今年は、大阪府と大阪府教育委員会の後援もあります。出張申請される時にも、新聞記事とともに、管理職に提示すれば、よくわかってもらえると思います。

※5月分が必要な方へ※

学力研HPにメール下されば、添付してお送りします。

●申し込みは早めに

全国フォーラムの定員は、会場の関係で、どう詰め込んでも200名です。5月末時点ですでに50名の申し込みがありました。今週か来週、大阪府内にはチラシが配布される予定です。そうなると、どっと申込があると思います。

夏休みの研修や出張の予定もそろそろ出そう頃ではないかと思えます。8月1日(土)です。上手に調整していただき、申し込みはお早めに。詳細は下記リンクを開いて確認下さい。

詳細はこちら <https://gakuryoku.info/media/share/2026taikai.pdf>

◇事務局だより 岡本 美穂

●夏のフォーラム

今年はずい

テーマ

「教科書とノートでどの子も伸ばす」できた！わかった！うなぐった！」

今年のフォーラムは、子どもたちの学びを支える「教科書とノート」に焦点を当て、授業づくりの核心に迫ります。明日の授業からすぐに生かせる実践が満載の1日です。

記念講演 新井紀子氏

「自力で学び続ける子どもに育てる」『シン読解力』の土台を育てる」

「時代」に求められる「読む力」の本質を、第一人者がわかりやすく語ります。

実践報告 岡本美穂

「言葉」に「だわる」1年生
「思考」を支える板書とノート実

践

1年生が自分の言葉で考え始める授業づくりを、板書とノートの工夫から紹介します。

学年別講座

1～6年・中高・家庭教育

国語・算数・学級づくりを中心に、各学年の発達に合わせた実践を紹介します。子どもをつまずきを見取り、学びをつなぐ授業のヒントが得られます。

昼休み企画 楽市楽座

すぐに使える教材・教具がそろった人気コーナー。実物を手に取りながら、授業のアイデアを広げられます。

教科書とノートが、子どもたちの学びを大きく変える。

今年の夏、ぜひご参加ください。お申し込みがすでに50名をこえています。

<https://www.kokuchupro.com/event/57a10467b8e9b5f2b30ff725a61e3308/>

学力研カレンダー



《各地のサークル・部会 2026年 6月 例会、イベント》

どなたでもご参加いただけます。お誘い合わせのうえお越しください。お待ちしております。

※会場等使用状況により、変更の可能性もありますことをご了承ください。

6/

- | | | | |
|--------------------|-----------|----------------|---------------------------|
| 26 (金) いろえんぴつ | 18時～ | コミュニティーセンターおおべ | 岸本 090-9117-6330 |
| 26 (金) 春日井学力研 | 18時半～ | レディヤン春日井 | 山口 080-6904-1697 |
| 26 (金) 伊丹学力研 | 18時半～ | 伊丹市役所横サイゼリヤ | 前田 090-9715-3830 |
| 27 (土) 大阪教育サークルはやし | 午後 | エルおおさか | 荒井 aik28501@bca.bai.ne.jp |
| 27 (土) みなみ学力研 | 9時45分～12時 | 阿倍野区民センター | 図書 nobu580701@yahoo.co.jp |
- オンライン開催のサークルには、参加方法を連絡先にお尋ねください。

他サークルも活動していますので、翌月以降の日程のお尋ね等にご連絡ください。

《全国キャラバン等 今後の予定》

- 学力研 1年生講座 6月27日(土) 13:30～14:30 オンライン
- 学力研 全国フォーラム 8月1日(土) 9:45～ 1日集会 エルおおさか
教科書とノートでどの子も伸ばす～できた！わかった！つながった！
記念講演 新井紀子氏
 - ・ 実践報告 岡本美穂
 - ・ 学年別講座&分科会

(詳細はメルマガ「まぐまぐ」、「こくちーず」などで)

(講師派遣希望、サークル情報などは 事務局へ 079-426-5133)

※夏休みまで祝日がないですが、その分、継続的に子どもたちを伸ばせるというものです。(荒井)

ご意見・ご感想は下記まで

- | | | |
|-------|--------|------------------------|
| 荒井 賢一 | E-mail | aik28501@bca.bai.ne.jp |
| 李 詩愛 | E-mail | iwamotoshie@gmail.com |
| 堀井 克也 | E-mail | katsuya4k1h9@gmail.com |
| 古東 秀一 | E-mail | kohigasi1201@gmail.com |